

中国のリンゴ生産量は、米国農務省が発表している最新の統計によれば、2015〜16年の予測値は、4300万トンで、全世界のリンゴ生産量7688万トンの56%と過半

を占めている。中国は人口13・7億人、国土面積960万平方キロとそれぞれ全世界の18・8%、6・5%を占めるが、リンゴ生産量は突出している。本県の生産量が41万トンだから、中

## 5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

24

国は本県の100倍以上と、いくら大国とはいえ、想像を絶する多さだ。

中国で、リンゴ栽培が拡大したきっかけは、鄧小平主席が1978年から推し進めた「改革開放

政策」によるところが大

きい。以前は、国が統制

して穀物中心の生産に限られていたものを、一部緩和して作物選択の自由を認めたのだ。

さらに、2003年に「りんご優勢地域発

# 日本産「世界一」に対抗

展計画」を定めて、リンゴの適地を指定し、優先的な支援を行った。渤海湾地域の山東・遼寧・河

北と西北黄土高原地域の陝西・山西・河南・甘粛の2地域7省が対象となった。

こうした国の

政策の後押しがあつて、生産者は収益性の高いリンゴ栽培への

中国・広州市の高級スーパーで売られていた日本の「世界一」<sup>㊤</sup>と中国の「寒富」=2014年1月(県国際経済課提供)



関心を高めていった。この10年ちよつとの間に、一気に栽培面積を拡大させ、品質も年々向上させている。

生産の是正のため、今後1千万トンの生産削減をするとしているが、具体策は定かではない。また、品種がふじに特化しているため、市場出荷が特定の時期に集中して価格を低迷させている。

こうした状況を克服し

ようと、中国は独自に「寒富」という品種を開発した。遼寧省瀋陽農業大学で選抜され、寒さに強く、1個500gを超える大玉もあり、貯蔵力もある。日本産の世界一、陸奥に対抗できる優良品種としている。今後とも中国リンゴの動向から目が離せない。

これだけ拡大した中国のリンゴだが、問題も抱えている。不適地にも作付けが拡大し、収益性が低下している。情報通によると中国産は、過剰

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)